

I. ハノイ貿易大学への教員派遣事業

1. 派遣教員、奈良女子大学研修生

派遣教員	武藤 康弘	奈良女子大学研究院人文社会学領域 教授
同行学生	鈴木 ひかる	理学部 2 回生

2. 派遣期間

平成 27 年 11 月 27 日（金）から 12 月 1 日（火）までの 5 日間。

11 月 27 日（金） 関西空港からベトナム・ハノイ市へ

11 月 28 日（土） ハノイ貿易大学にて集中講義（午前、午後とも武藤担当）

11 月 29 日（日） ハノイ貿易大学にて集中講義（午前、鈴木担当、午後、武藤担当）

11 月 30 日（月） 2016 年に奈良女子大学へ留学予定のハノイ大学の大学院生 2 名、研究生として留学予定の人文社会大学の卒業生を、ハノイ市内で面接。
夜、ハノイ市ノイバイ空港を出発。

12 月 1 日（火） 早朝、関西空港到着。

3. 講義概要

テーマ 「日本の伝統文化と現代文化」

11 月 28 日 午前

前半の「古都奈良の宗教世界」では、日本固有の宗教である神道と、仏教そして中国から伝来した道教が、混然として信仰されている日本の宗教の多様性について解説した。道教信仰はベトナム北部にも広がっているため、日本の信仰と宗教について比較文化的な視座から、理解が深められたものと考えられる。

後半は、映像資料をもとに北海道から沖縄までの日本の伝統的な祭礼を紹介した。なかでも、長野県諏訪大社の御柱祭と大阪岸和田のだんじり祭が学生たちには好評であった。工業化が進行し社会が高度にシステム化された現代日本で、このような豪快な祭礼が古くから伝承されていることに、学生たちは驚いていたようであった。

11 月 28 日 午後

前半は、京都の祇園の舞妓と、和食について映像資料をもとに解説した。学生たちは、京都の舞妓と芸妓の美しい着物や優美な舞に大変興味をもったようであった。また、発酵食品を中心とした日本の和食についての講義でも、食文化という身近なテーマであった

め、ベトナムの発酵食品と比較しながら理解が深められた。

後半は、日本の近世までの教育と近代以降の学校教育について映像資料をもとに紹介した。学生達は、日本の小学校の給食や掃除の映像に大変興味をもったようで、規則正しい小学生たちの日常生活の様子に驚嘆していた。

11月29日 午前

はじめに、同行した理学部学生の鈴木ひかるさんが、奈良女子大の概要をパワーポイントで説明した。その後、鈴木さんが、出身地である福島県南相馬市の東日本大震災から復興の様子や国指定の重要民俗文化財である相馬野馬追の映像を上映し、学生たちの拍手喝采をあげた。

11月29日 午後

午後は日本の現代文化を講義した。はじめに音楽映像クリップを多数紹介しながら、**J-pop** の歴史についてとりあげ、最後に初音ミク等のボーカロイドの進化について解説した。さらに、**K-pop** と **J-pop** の表現方法の違いについて、**E-girls** のサブユニットである **Flower** のビデオクリップをもとに解説した。また、日本とアメリカの音楽シーン以外には存在しないガールズバンドについて、**Zone**、**Silent Siren**、**Scandal**、**Sishamo** 等のビデオクリップをもとに解説した。学生たちは、メンバー全員がモデル出身の **Silent Siren** がお気に入りであった。また、最新の音楽動向として、ニコニコ動画からメジャーデビューをとげた **Daoko** を取り上げて、新しい音楽発信のあり方について解説した。学生達は日々、ハノイの街角やベトナムのテレビ放送において、韓国の **K-pop** や韓流ドラマに日々さらされているのが、ベトナムの現状である。日本の **J-pop** や日本のテレビドラマを視聴する機会は、殆どないと言っても過言ではない。このような状況について、日本の音楽・映像配信の特徴として、著作権管理が非常に厳しいことを取り上げて、韓国のソフトパワーのグローバル展開との明確な戦略の違いについて解説した。著作権の保護と管理はTPP協定においても、非常に重要な項目であるので、ベトナムのテレビやインターネットにおいてなぜ、日本のテレビドラマや **J-pop** を視聴する機会が少ないのか、著作権保護の重要性について、学生たちの理解を促すことができたと思われる。

4. 講義評価

4-1 同行した研修生による評価

理学部 数物科学科 数物連携コース 2回生 鈴木ひかる

夏季ベトナム研修で、初めてのベトナムを体験してから約3か月後、再びベトナムの首都、ハノイへ行く機会をいただきました。今回は、ハノイ貿易大学（以下、**FTU**）で授業を行う教授のサポートに加え、自身で作成したプレゼンテーションを行うという役割を任せられてのベトナム訪問、「わかりやすい資料を作れているだろうか」「**FTU** のみんなに、

興味を持ってもらうためにはどうしたらよいだろうか」と、出発前はもちろん、行きの飛行機の中もずっと考えていました。初めての土地への期待と不安、知的好奇心で一杯だった前回のベトナム研修のときとは、また違った緊張感がありました。私のプレゼンテーションは、

- ① 奈良女子大学の紹介
- ② 私の大学生活と、日本の大学生の特徴
- ③ 東日本大震災とその後の東北

の3つをテーマにしていました。①は、奈良女子大学の歴史から、現在の学部学科の構成や、留学制度の説明までを図や表、大学の資料を用いて行いました。②は日本の大学生の特徴を知ってもらうと同時に、日本で学んでみたいと思ってもらえるよう、私が大学の授業で、数学を解いて発表しているところや、課外活動として行っている箏の演奏、科学教育を行うアルバイトで活動している様子などを、写真で見てもらいながら行いました。③は、震災における私の経験をふまえながら、原発事故を含む、東日本大震災がもたらした影響と、その後の被災地の現状を説明し、写真や映像を使いながら、プラスの面マイナスの面、両方を伝えられるよう工夫しました。

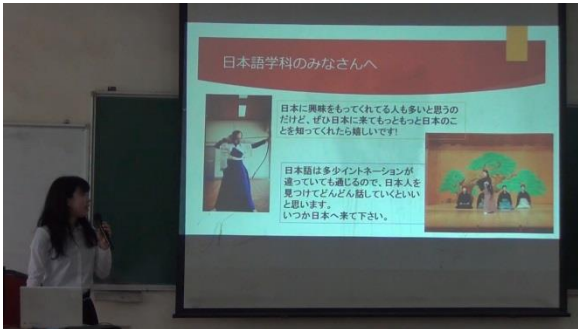
正直、パソコンの不具合や、操作ミスもあり、とても上手とは言えないプレゼンでしたが、日本語学科の学生さんたちは、真剣に授業に参加してくれて、「もっと知りたい部分があるから、スライド内で紹介していた URL を送ってほしい」と言ってくれた人もいました。海外の大学でプレゼンを行うという、初めてのミッションでしたが、奈良女子大で学ぶ学生として、現代の日本に生きる大学生として、また、東北で生まれ育った一人の人間として— 「私だからできるプレゼン」が、できたのではないかと思います。反省点としては、もっと時間配分を考え、より自由に意見交換ができるような質問タイムを作るべきだったと考えます。そうすれば、より多くの人と話ができただろうのではないかと思います。

サポートさせていただいた、派遣教員である武藤先生の講義は、日本の伝統文化と現代文化の紹介、最新の経済の話など、写真や映像を用いた、わかりやすく大変興味深いものでした。私自身、日本について知らないことがたくさんあることに気づかされ、FTU の学生と一緒にメモを取りながら日本について勉強しました。また、ベトナム人から見た日本の姿というのも、FTU の人たちの反応から直接知ることができ、自分の発表以外の時間でも、本当に多くの学びがありました。

FTU での滞在時間はあっという間で、「もっと学生と話したい!」「もっと、ベトナムの大学生活を知りたい!」という気持ちが残りました。今回の経験と、つながりを生かして、今後の、ハノイ貿易大学と奈良女子大学の学生間の交流の架け橋になればよいなと思っています。



講義を聴く学生



奈良女子大学の紹介をする鈴木ひかる

